

2021年8月1日 聖餐式説教

旧約聖書の出エジプト記には、エジプト人に奴隷として扱われていたイスラエルの人たち 60 万人が、モーセを先頭にカナン之地へ帰って行った物語が記されています。この旅は実に 40 年にわたりました。一番近い道を行けば一か月で到達できるのに、神様はなぜ 40 年もかけて目的地へ導かれたのかといいますと、人々が困難に遭遇する度にそれを乗り越える者がそろうのを神様が待たれるためだったと書かれています。奴隷となった人々の心は打ちひしがれており、困難に立ち向かうことができなかつたので、神様は奴隷のイスラエルではなく砂漠のイスラエルがそろうのを待たれるため、人々を 40 年かかるみちへ導かれたのでした。

本日の聖書の箇所をみますと、奴隷生活によって心打ちひしがれてしまい、困難に立ち向かって行くことができない人々の姿が描かれています。彼らは海の奇跡を目の当たりにした人々でした。前は海、後はエジプト軍の絶体絶命の危機の中、神様は海の中に乾いた道を用意され、人々を危機から救い出しました。人々はこの大きな業を見て、神様の讚美をささげたのでした。ところがその思いは長く続かず、飲み水がない、食べ物がないとの危機が迫ると、神様への讚美の心を忘れ、不平を言いだすのでした。エジプトでは自由はなかつたものの、生活は保障されていました。食べるものを自分で確保する必要はなかつたのです。しかし自由となった今、彼らは不平を言うのではなく、自分自身で困難を切り開いていかねばならなくなりました。自由には責任が伴うのを、イスラエルの人々は気づいていなかったのです。

しかし神様はこうした人々をも愛しておられ、必要を満たされました。40 年という極めて長い出エジプトの旅を成し遂げることができたのは、神様がこうした恵みを与えてくださったからであるのは言うまでもありません。

本日の福音書に目を移しますと、主イエス様が「命のパン」について語られた箇所が選ばれています。「命のパン」すなわち聖霊による養いが人々に必要であること、これなくして神様の前に正しく生きることはできないこと、肉のパンのみに心を奪われてはならないことが語られています。

今日は日本聖公会青年活動のための主日です。明日の教会を担う青年たちのため、主の導きと祝福を祈りましょう